

令和3年度 北本市学校評価システム 自己評価報告書（共通項目）

北本市立中丸小学校
校長 恵守 孝二

| 評価項目 | No. | 観 点 | A+B/全体 (%) | 自己評価についての説明及び来年度に向けての改善 |
|---------------|-----|---|------------|---|
| 組織運営 | 1 | 本校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫している。 | 100 | |
| | 2 | 教職員は、PDCAサイクルのもと、課題を明確にし、学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあたっている。 | 100 | ○学校として本当に必要な備品を購入できるシステムに変更する。 ①1学期中に教科主任に備品の現状確認及び購入希望の検討依頼をする。 ②夏休みに検討委員会を実施し、購入希望リストから、優先順位を設定し、購入希望書を作成する。 ※但し、算数・理科について、必ず執行しなければならない予算がついていることに留意する。 ○業務改善の視点からふれあいデーの取組を継続する。 ふれあいデーは、働き方改革の一環として、全県で取り組んでいる(会議や研修会を行わない、保護者や地域にも協力を求めている)。加えて本校では、カエル会議により、取り組みやすい独自の日程を設定している。こうしたことに鑑み、引き続き、ふれあいデーを実施する。但し、保護者からの教育相談や緊急対応等でもうしても取り組みない場合は例外を認める。 |
| | 3 | 本校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・掲示・活用し、組織的に、かつ迅速に対応している。 | 96 | ○校内支援体制図を作成し、事故やトラブル等に対して、次年度以降も別紙の通り、組織で対応する。 困難を抱えた児童や不登校児童、保護者トラブルについては、担任の心理的、実務的負担軽減や次年度への引き継ぎの面から、対応について図式化した。 |
| | 4 | 本校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあたっている。 | 100 | |
| 基礎学力の徹底 | 5 | 児童生徒は、授業中、落ち着いて、学習内容を理解しようとする姿勢がみられる。 | 100 | |
| | 6 | 教員は、学力の向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて日々の授業改善に努めている。 | 96 | |
| | 7 | 基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあたっている。 | 100 | |
| | 8 | 教職員は、児童生徒に家庭学習の習慣を定着させるために、家庭に積極的に働きかけるなど工夫している。 | 92 | ○学力向上のためにも、今年度の指導・支援体制を継続させたい。 ・(Cをつけている部分 コロナでできなかったから例年よりもできていないから。懇談会がないから致し方ない部分があるという意見)基礎学力の向上を考えると、指導側の人数を増やす。1クラスの人数を減らす。(弾力的運用を視野に入れる) ・今の体制で算数をやっていることで学力調査で良い結果が出ているのならば、来年度も教員の人数を減らさずに今年度の体制を維持する。(今の3年生は、ひとり入るだけでは3クラスに分けるだけになる) ○土曜補習の計画を見直し、内容の充実と教職員の負担軽減を図る。 ・土曜補習(希望制から呼び出し制にした結果)・呼び出し制にしても来て欲しい人が来てくれない・希望する児童も来てほしいことにすると良いのではないかと、教員としては、出る回数(負担)を減らしたいという希望。しかしそれをすると学力は落ちる。中には土曜補習を資金的に希望する、増やしてほしい保護者もいるが、一地域に委託するのはどうか。(地域にも役割を担わせてほしいという意見もある)地域に委託する(中学校のナイススクールの)・45分コマのためにくるのは大変なので、2コマを増やしてはどうか |
| 規律ある態度の育成 | 9 | 児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。 | 84 | ○あいさつを奨励する取組を継続し、児童が進んであいさつできるようにする。 ・継続的に意識させるために、教師がクラスで挨拶についてフィードバックする頻度を増やす。 ・あいさつカードの継続をする。 ・伝わる挨拶ができるように、挨拶の仕方を教えてあげる。 ・4年生以上の代表委員を募り、あいさつができるようになるための取り組みを考え、実行する。 |
| | 10 | 児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に合った正しい言葉遣いができる。 | 88 | ○児童の発達段階に応じた言葉遣いの指導を行い、正しい言葉遣いをめざす。 ・困難を抱える児童に対して、全てについて敬語で話させようとするのは無理が出るため、常に敬語にしないという指導はできない。 ・職員室に入ってくる児童への指導等、気づいたときに正しい言葉遣いを教えてあげる。 |
| | 11 | 児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送っている。 | 100 | |
| | 12 | 教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。 | 100 | |
| 健康・体力 | 13 | 児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる。 | 96 | |
| | 14 | 本校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようとして努力している。 | 100 | ○防犯対策に努め、安全な校内環境を築く。 ・7:30頃開くようにしていく。但し、A棟B棟通路については、給食調理員が通過するため、鍵はあけておく。 |
| 保護者・地域・異校種間連携 | 15 | 本校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。 | | |
| | 16 | 本校は、各種たよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。 | 96 | |
| | 17 | 本校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロールや声かけ運動などの計画を立てて定期的に実施している。 | 96 | |
| | 18 | 本校は、異校種間(幼保小、中高等)の連携を積極的に推進している。 | 100 | |

令和3年度 北本市学校評価システム 自己評価報告書（学校独自の項目）

北本市立中丸小学校
校長 恵守 孝二

| 評価項目 | No. | 観 点 | A+B/全体 (%) | 自己評価についての説明及び来年度に向けての改善 |
|---|-----|---|------------|--|
| 研 修 | 1 | 本校は、研修体制が明確で、研修が計画的に行われている。 | 100 | <p>○研修計画を見直し、実態に応じた研修ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校課題としてやりたい研修内容と、実施されている研修内容に差がある。 ・年間指導計画は、全てを組み替えずに問題があった箇所のみを次年度に共有して修正することで、時間短縮を図る。 ・締切などを、市教委が柔軟に対応してくれると良い。（経営案や年間計画等） ・タブレットや電子黒板の研修に関しては、研修時間だけでは足りない印象があった（研修内容と設定時間にずれがある）。 <p>○年度当初に宮内中学校区の3校で協議し、合理的に連携が図れるような体制をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・432制がうまく機能しておらず、人手だけが取られている印象。学区が複雑なため、中丸小ではやりづらい。 ・中学校へ出張に行く先生の負担が大きい（担当の先生を決めて、年間を通して行くのどうか。昨年の担任や主幹が行く）。 ・教科が道徳だけなのも疑問（算数や国語等の教科でも良いのではない）。 |
| | 2 | 本校は、研修授業、教材研究、指導方法に関する研修等を適切に行い、教職員が意欲的に参加している。 | 96 | <p>○年度当初に入り授業及び時間割を調整し、効果的な指導ができるようにするとともに、教職員の負担軽減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制は、来年が発表の年のため、算数は難しい（少人数制の影響もあり）。 <p>社会や理科を教科担任制にするのもありだが、その学年の先生の立場によっては難しい場合もある（初任者などは経験不足になる可能性がある）。</p> <p>教科担任制により、毎時間先生が変わることになると、生徒指導が行いにくくなる可能性も考えられる。ただ、教材研究の時間削減にはつながるので、各学年の実態や先生方の考えによっては、取り入れても良いのではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職集の終了時間が伸びてしまうことが多いため、時間を前倒しにできないか。 |
| | 3 | 本校は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「わかる、できる、楽しい算数の授業」に向けた授業改善に取り組んでいる。 | 96 | |
| | 4 | 本校は、「働き方改革」に向けた業務改善をすすめている。 | 96 | |
| 健 康 | 5 | 本校は、むし歯の治療勧告を受けた児童への指導など、歯科保健指導を積極的に行っている。 | 100 | |
| 特 別 支 援 教 育 | 6 | 本校は、校内支援体制を整備している。 | 100 | |
| | 7 | 本校は（なかよし学級以外にも）個別の支援を必要とする児童への対応を適切に行っている。 | 96 | <p>○個別の支援を必要とする児童への対応を継続し、一人一人のニーズに対応した適切な支援を行う。</p> <p>（スタート時児童6人に対して担任2、支援員2）なかよしは、だれが来てもあたたかく迎えてくれる。学力向上支援員の配置を毎学期見直す。算数以外の国語の作文などに入ってもらい。教員側は、今以上の人数になると厳しいので、来年度受け入れられない可能性がある。これ以上増えると、これまでの教育の質よりも落ちてしまう。特別支援教育に対する理解を求める文章を学校だよりにかいてもらったが、来年度も続ける。（障害をもって児童の支援に限定せず、配慮が必要な児童への支援のことも言っている書き方が良かった）</p> |
| 来年度の重点目標（共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて） | | | | |
| <p>1 不登校児童や保護者への組織的対応 2 算数科の研修の推進 3 ICTの効果的活用 4 体力向上 5 働き方改革の推進</p> | | | | |